

第1回死生懇話会

「死」「生」は誰のもの？
個人だけのもの？

自分らしい生き方って？

「死」は隔離されたものになった？

寿命が伸び、「人生100年時代」とも言われる中、どう自分らしく生きるかについて考える時代になってきました。

一方で、日本は、年間死亡者数が増加する「多死社会」を、これから迎えようとしています。

誰もが避けられない「死」とどう向き合い、そこから限りある「生」をどう捉えるか、そういった根源的なテーマを真正面から考えることで、より豊かに生きるための施策につなげる契機とすることを目的として、滋賀県では、様々なお立場の方からなる「死生懇話会」を設置しました。

「死」というものを暮らしや地域の中で遠ざけず、直視して、だからこそ、生きていることをより大切に、一緒に生きていることに意味を持たせていく、そうしたことを考えるために「第1回死生懇話会」を開催し、様々な角度からの議論を深めていきたいと考えています。

2021年3月6日(土)

オンライン開催

14:30~16:45

議事

- 14:30 開会・委員等紹介
- 14:35 開会にあたって(滋賀県知事 三日月大造)
- 14:45~15:40 各委員、知事による意見交換①
「死生」をめぐる価値観や社会状況、様々な事象に関して、それぞれの専門や立場、日ごろの活動から感じていること等についてのお話と意見交換
- 15:40 休憩
- 15:50~16:45 各委員、知事による意見交換②
「死」や「生」を個人だけで考える、あるいは民間で取り扱うということだけでなく、どう行政が関われるか、行政に求められる役割は何か、「死」「生」を考えることが今後の社会においてどういった意義をもつか等についての意見交換
- 16:45 閉会

アンケートにご協力をお願いします。

ご聴講いただきました後、アンケートにご協力いただき、ご意見・ご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

以下のURLまたはQRコードより、アンケートシステム(しがネット受付サービス)にお入りいただけます

【アンケート】

https://s-kantan.jp/pref-shiga-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=9392



主催

滋賀県総合企画部企画調整課 企画第二係

TEL 077-528-3312 メールアドレス kikaku02@pref.shiga.lg.jp

死生懇話会について

滋賀県では、誰もが避けられない「死」について真正面から考えることで、限りある「生」をより一層充実させる施策につながる契機とするために、様々なお立場やご専門の方からなる「死生懇話会」を設置しました。

この懇話会は、どう生きるのが良いかといった価値観を押し付けるものではなく、「死」や「生」の捉え方等についての様々な考え方や取組の情報を発信していくことで、それに触れた方それぞれのアンテナにひっかかる“何か”を見つけていただき、より豊かに生きることのヒントを見つけていただけるものにしたという思いで開催するものです。

そして、今後、多死社会を迎える中で、行政の役割や行政へのニーズもこれまでとは違って来るのではないかと考え、「死」を捉えた「生」のあり方について、皆さんと議論を深め、様々な視点からのご意見や情報をいただくことで、多死社会において行政ができること、人生100年時代に行政に求められることが何かを探っていききたいと考えています。

「死」をタブー視せず真摯にみつめ、「生」を考えること。そのことが滋賀県基本構想の理念とする「**変わる滋賀 続く幸せ**」の実現につながるよう、皆さんと議論を深めていきます。

〈死生懇話会 ～「死」を捉えた「生」のあり方を考えるヒントに～（県ホームページ）〉

滋賀県では、死生懇話会のご紹介とあわせて、「死」「生」に関する様々な取組、考え方について色々な方にインタビューさせていただいた取材記事等を県ホームページでご紹介しています。

URL : <https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/kousou/316588.html>



出演者プロフィール

「死生懇話会」委員 (50音順)

打本 弘祐 さん 龍谷大学農学部 植物生命科学科 准教授

龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学（文学修士）、桃山学院大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程修了（社会学博士）。浄土真宗本願寺派僧侶。ビハラー僧として緩和ケア病棟や高齢者施設での勤務を経て、2015年4月に龍谷大学文学部へ着任、2020年4月より現職。現在は医療福祉現場での宗教者の活動を研究しつつ、仏教を通して学生へ死と生を考える講義を行なう。



越智 真一 さん 一般社団法人 滋賀県医師会 会長



京都府立医科大学を卒業後、病院勤務を経て、大津市内にて開業。以来、開業医として地域住民の疾病予防や健康管理に精力的に従事してきた。大津市医師会の役員として介護保険制度への対応や認知症施策の充実に貢献、2008年4月大津市医師会会長に就任。2010年4月からは滋賀県医師会理事を努め、救急災害医療体制の整備を行政とともに推進する活動に尽力、2018年4月に滋賀県医師会会長に就任し、滋賀県の保健・医療・福祉の向上と充実に努めている。

楠神 渉 さん 滋賀県介護支援専門員 連絡協議会 副会長

主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士。2001年より介護老人福祉施設で勤務。地域との連携をより深められないかと2007年にNPO法人加楽を設立。東近江市内の田園地区で、高齢者向けの居宅介護支援、通所介護、介護保険外事業や地域活動などを行っています。

「子どもも、お年寄りも、障がい者も外国人も、みんなで地域のことを考えていければと思います」



藤井 美和 さん 関西学院大学人間福祉学部人間科学科 教授（死生学研究者）



研究領域は、死生観、クオリティー・オブ・ライフ（QOL）、スピリチュアリティ。新聞社勤務中、神経難病を発症。全身麻痺となり、半年の入院、2年半のリハビリを経験。これが死生学領域に関心を持つきっかけとなる。1994年関西学院大学大学院社会学研究科修了後、フルブライト留学生としてアメリカ、セントルイスのワシントン大学（Washington University）博士課程入学。1999年Ph.D.（博士号）取得。主著に「死生学とQOL」（単著）。「たましいのケアー 病む人のかたわらに」（共著）、「生命倫理における宗教とスピリチュアリティ」（共編著）。

ミウラ ユウ さん NPO法人 好きと生きる 理事
一般社団法人子どもエンターテインメント 代表理事

20代から各ボランティアに参加。結婚後10年間の不妊治療を経て緊急帝王切開で長男を出産。生きて生まれる確率3%といわれる難病で生まれた。長男が5歳の頃から病児を持つ保護者の悩みを傾聴するボランティアを始める。2018年一般社団法人 子どもエンターテインメントを設立。外出困難や入院中の子どもにエンターテインメントを届ける事業を展開。福祉とエンターテインメントの融合により人々を幸せにするプログラム、子どもの人権について学ぶ機会を提供。また社会との関わりが困難な人のための居場所提供を実施。



学生委員1名

「死」や「生」をどう捉えるのか、若い世代の視点から議論に参加いただきます。

ファシリテーター

上田 洋平 さん 滋賀県立大学 地域共生センター 講師



滋賀県立大学卒業（1期生）。滋賀県立大学大学院人間文化学研究科地域文化学専攻博士課程単位取得退学。専門は地域文化学・まちづくり。風土に根ざした暮らしと文化の研究と実践に取り組む一方、地域と連携した人材育成や「地域共育」プログラムの開発も手掛ける。住民が協力し合って地域の暮らしの物語を「屏風絵」として描き上げるまちづくりの手法「心象図法」を開発。「死によって別たれるのではなく、死をも分かち合うことによって結ばれるのが人間であり、人間の共同体とはそこに発生するのではないかと思います」

滋賀県知事

三日月 大造

